

## 三方五湖自然再生事業実施計画（第2期） について（R3～R7）

- 作成スケジュール
- 第2期計画（目次）案
- 第1期計画の評価（概要）（案）
- 第2期計画（概要）：これまでの成果・課題・目標（案）

R03.03.14  
三方五湖自然再生協議会

1

1

## 作成スケジュール（これから）

### 令和2年度

○3月14日 全体会

### 令和3年度

○5～6月 全体会（第1回）  
※第2期計画案の説明、協議

○9～10月 全体会（第2回） 書面開催？  
※第2期計画案の承認

○\_\_月 国の専門家会議

○3月 全体会（第3回）  
※第2期計画の公表

3

3

## 資料2

## 作成スケジュール（これまで）

（参考）これまでの作業

令和元年度

○10月17日（木） 部会長・事務局合同会議（第1回）

○11月～2月 各部会会議（1～2回）

○2月19日（水） 部会長・事務局合同会議（第2回）

令和2年度

○6月10日 事務局会議

○6月～8月 各部会会議

○9月16日 部会長・事務局合同会議（第3回）

2

2

## 第2期計画（目次）（案）

- はじめに
- 実施者の名称及び実施者の所属する協議会
  - 2.1 実施者の名称
  - 2.2 実施者の属する協議会
- 計画の期間
- 対象区域
- 全体構想で掲げた目標に対する取組の成果と課題
- 第2期三方五湖自然再生事業実施計画の位置づけ
  - 6.1 三方五湖自然再生全体構想
  - 6.2 順応的アプローチの適用
- 第2期における自然再生の実施計画
  - 7.1 湖岸等の自然再生事業
  - 7.2 湖と田んぼのつながり再生事業
  - 7.3 侵略的外来生物への対策事業
  - 7.4 三方湖におけるヒシへの対策事業
  - 7.5 環境に優しい農法事業
  - 7.6 三方五湖を活用した環境教育事業
  - 7.7 シジミのすむ湖岸再生事業

（別紙）  
第1期自然再生事業実施計画の事業評価

資料  
資料1 三方五湖自然再生全体構想概要  
資料2 三方五湖自然再生協議会規約等  
・設立趣意書  
・三方五湖自然再生協議会規約  
・三方五湖自然再生協議会運営細則  
資料3 三方五湖自然再生協議会構成員名簿

4

4

## 第1期自然再生事業実施計画 事業評価

### 三方五湖自然再生 全体構想に掲げた目標 (H24.3)

【テーマ1】 多様な魚介類がすみ、水鳥が羽ばたく水辺の再生と保全 目標1~6

【テーマ2】 「三方五湖」の自然を活かした地域のにぎわい再生 目標8~13

【テーマ3】 生活の中で受け継がれてきた湖の文化の伝承 目標14~20



### 評価 (R03.3)

20の目標に対し、これまでの事業結果を踏まえ、達成の程度を5段階で評価

評価:1大きく前進、2前進、3足踏み、4後退、5大きく後退

5

5

### 【テーマ2】 「三方五湖」の自然を活かした地域のにぎわい再生

(評価:1大きく前進、2前進、3足踏み、4後退、5大きく後退)

(案)

目標	目標・内容	評価
目標8	福井県内外で「ラムサール条約登録湿地・三方五湖」の知名度を高めます。	1
目標9	三方五湖での魚介類の資源を高い水準で回復させ、魚介類の需要を向上し、安定的で持続可能な漁業を目指します。	2
目標10	環境配慮型で、誰もが取り組みやすい農法の研究・普及を図ります。	2
目標11	「三方五湖」を冠した魚介類・農作物などを活かした商品を、四季を通じて流通させます。	2
目標12	「三方五湖」を冠したエコツアーを年間を通して開催します。	3
目標13	三方五湖での環境浄化や漁業・農業とそれを活かした加工業、サービス業での就業意欲が高まる事業を創出します。	2

7

7

### 【テーマ1】 多様な魚介類がすみ、水鳥が羽ばたく水辺の再生と保全

(評価:1大きく前進、2前進、3足踏み、4後退、5大きく後退)

(案)

目標	目標・内容	評価
目標1	三方五湖の湖岸では、治水機能を保ちながら、多様な生きものを育む自然豊かな水辺を取り戻します。	2
目標2	湖岸から周辺里地では、ラムサール条約登録の理由となった魚類、多様な貝類、トンボ類、両生類、水鳥などや水草を育む水辺を取り戻します。	2
目標3	フナやナマズが田んぼで産卵する姿が見られるように、湖～田んぼの生きものつながりを取り戻します。	2
目標4	自然豊かな水辺のシンボルとして、湖と田んぼを往来する水鳥の姿と豊かな魚類相が支える海フシが舞う空を取り戻します。	3
目標5	外来生物の姿が少ない水辺を目指します。	2
目標6	三方五湖本来の水質浄化作用を回復させ、健全な水環境を取り戻します。	2
目標7	里山から湖へと続く、三方五湖流域全体の保全・管理を図ります。	2

6

6

### 【テーマ3】 生活の中で受け継がれてきた湖の文化の伝承

(評価:1大きく前進、2前進、3足踏み、4後退、5大きく後退)

(案)

目標	目標・内容	評価
目標14	四季折々に美しく、心安らぐ湖の風景を取り戻します。	1
目標15	子どもの遊び声がにぎやかな水辺を取り戻し、子どもの頃から湖とふれあう機会を増やします。	1
目標16	子どもたちが、三方五湖や周辺地域における伝統的な漁法や昔ながらの農法を体験・見学する機会を増やし、伝承します。	1
目標17	子どもたちが、三方五湖や周辺での田んぼや水辺での環境教育活動に参加する機会を増やします。	1
目標18	三方五湖について誰もが知り学べ、保全活動に参加できる場、機会を増やします。	2
目標19	三方五湖の魚介類などの地域の食文化を掘り起こし、これを活用した地域行事が各地で開催されるようにします。	2
目標20	三方五湖や周辺地域の自然や文化の素晴らしさを伝えるリーダーを育てます。	2

8

8

## 第1期自然再生事業実施計画 事業評価（結果）(案)

【テーマ1】多様な魚介類がすみ、水鳥が羽ばたく水辺の再生と保全

【評価】86%(6/7)が前進、14%(1/7)が足踏み

【テーマ2】「三方五湖」の自然を活かした地域のにぎわい再生

【評価】17%(1/6)が大きく前進、50%(3/6)が前進、33%(2/6)が足踏み、の評価

【テーマ3】生活の中で受け継がれてきた湖の文化の伝承

【評価】57%(4/7)が大きく前進、43%(3/7)が前進

9

9

## 湖岸等の自然再生事業

### (成果)

- ・「久々子湖、水月湖、菅湖、三方湖、及び、はず川等の自然護岸再生の手引き」の作成
- ・自然護岸再生の先行整備

### (課題)

- ・「自然護岸再生の手引き書」に記載された各護岸モデルのモニタリングによる効果の実証や課題の抽出、設置技術の集積
- ・自然護岸再生モデルの実施予定場所のマップ化、実施体制の整備

### (目標)

- ・河川工事等でモデル護岸が採用されることにより、三方五湖の自然護岸が拡大し、災害への防御機能の向上と生物多様性の保全、再生を実現

11

11

## 第2期計画の概要（案）

### これまでの成果・課題・目標（R3～R7）

10

10

## 湖と田んぼのつながり再生事業

### (成果)

- ・シュロによるフナ・コイの採卵及び水田育苗技術のマニュアル化
- ・普及活動による育成田の増加(H25:6か所⇒R2:30か所)

### (課題)

- ・三方五湖地域のフナの目標増殖量の確保
- ・参加農家のメリットを確保し、かつ漁業者の所得向上につながるような、地域経済循環の仕組みづくり

### (目標)

- ・稚魚育成マニュアルを検証し、より大きく育てる技術の開発
- ・参加農家のインセンティブ確保と放流稚魚の生存率等の動向把握
- ・新たな在来魚種の水田養魚の導入を検討

12

12

## 侵略的外来生物への対策

### (成果)

- ・外来生物対策ガイドライン作成
- ・ミシシippアカミミガメ防除実施計画の作成
- ・関係機関が協力した外来種の捕獲の推進
- ・アカミミガメの一斉捕獲イベントの開催
- ・ブルーギルの密度指標(CPUE(捕獲効率))による監視の実現

13

13

## 侵略的外来生物への対策

### (課題)

- ・対策を講ずべき外来種(ブラックバス、ブルーギル、ウシガエル、ミシシippアカミミガメ、アメリカザリガニ、コウロエンカワヒバリガイ)に対し、捕獲は行っているものの生息数動態が不明(ブルーギル以外、生息数の増減傾向が科学的に未把握)
- ・外来種による漁業被害等の状況が不明

### (目標)

- ・生息個体数の傾向を把握
- ・捕獲エリアの設定

14

14

## 三方湖におけるヒシへの対策

### (成果)

- ・ヒシ対策ガイドライン(H28)の作成
- ・ワイヤーを用いた効率的な刈り取り手法を確立
- ・ワイヤーを用いた大規模なヒシの刈取りの実施(H30~)

### (課題)

- ・モニタリング(アオコ等の発生、ヒシの繁茂状況の監視)の継続的な実施体制の確保
- ・ヒシの適正な管理方法(あるべき状況)の協議

### (目標)

- ・ヒシの適切な管理方法の確立
- ・ヒシの適正な繁茂状態の維持 15

15

## 三方五湖を活用した環境教育

### (成果)

- ・年間を通じて学校・農漁業者、野鳥の会等の自然再生団体、行政等が連携し、三方五湖の自然を活かした環境学習を推進
- ・昔の水辺の風景画(平成25年~)を美浜町・若狭町の小中学生から募集(合計1297点の応募)  
→作品は各種展示会やWeb上で公開、自然護岸の再生やヒシ対策等における基礎資料、論文等の作成に貢献
- ・「子どもラムサールクラブ」の設立(平成30年度)、森里川海の連環を体験できる学習会を実施(参加小中学生 合計54名) 16

16

## 三方五湖を活用した環境教育

### (課題)

- ・年間を通じた環境教育活動に加え、リアルタイムでの情報共有を推進。
- ・昔の水辺の風景画に代わり、「昔の水辺のくらし」等の新たなテーマを設定し情報を収集・蓄積。

### (目標)

- ・SDG'sの担い手となる人材育成の推進
- ・子どもラムサールクラブ受講者数  
(R3~R7 累計100人)

17

17

## 環境に優しい農法の取組

### (課題)

- ・認証制度の拡大のための、地元PRを推進
- ・だれもが取り組みやすい制度への改良(新制度創設を含む)
- ・認証制度を水稲以外の農作物へ拡大する検討
- ・生き物調査、土壌調査の継続的な実施に向けたモニタリングの実施体制の整備

### (目標)

- ・認証制度の取り組み水田面積 R7 15 ha
- ・新たな認証制度の取り組み水田面積 R7 100 ha

19

19

## 環境に優しい農法の取組

### (成果)

- ・「環境に優しい農法認証制度」の策定(6団体認定)
- ・代掻き濁水の排水タイミングの調整による水質汚濁の防止効果を調査解明
  - のぼりとチラシの配布による普及啓発
  - 濁水防止の現地普及(パトロール)の実施
- ・環境に優しい農法の普及のため、生き物調査や土壌調査を実施

18

18

## シジミのなぎさ再生事業

### (成果)

- ・水月湖・菅湖・久々子湖での再生なぎさの拡大
- ・漁獲されたヤマトシジミの商品化とブランド化

### (課題)

- ・なぎさ再生候補地の明確化(オーソライズされたゾーニング)
- ・なぎさ再生に係る“行政手続き”と“漁協との調整”のマニュアル化
- ・シジミ資源管理手法の確立(モニタリングを含む)
- ・水揚げされたシジミの商品化

### (目標)

- ・なぎさ再生事業の簡易化(他府県の見本になるレベル)
- ・水月湖・菅湖・久々子湖での再生なぎさの拡大
- ・シジミ漁の再産業化

20

20